



基地経済の現状

特集

基地と共に歩むまち佐世保



自衛隊や米海軍基地が所在する本市では、基地に関連する経済活動が本市経済を支える大きな柱の一つとなっています。また、令和7年8月には、本市の最重要課題の一つであり佐世保港のすみ分けにつながる「前畠弾薬庫の移転・返還」が進捗しました。今後も「基地との共存共生」の方針の元に、基地を生かしたまちづくりを進めています。

なぜ佐世保には防衛関連の仕事が多いのか

佐世保の歴史

明治22年(1889年)の佐世保海軍鎮守府開庁以降、造船や修理、補給などの軍需関連産業が集まり、軍港都市として発展した佐世保市。終戦に伴い、鎮守府は解体されましたが、米海軍基地、自衛隊(海上・陸上)が設置され、我が国有数の防衛拠点となりました。

佐世保の基地経済

本市は東シナ海に面し、朝鮮半島や中国大陆に近接する位置にあります。そのため我が国の南西地域の防衛に重要な役割を果たしており、明治期以来、艦船建造や修理など造船業を中心に防衛関連の仕事が多く、関連企業や商業活動を含めた基地経済が佐世保を支えています。

佐世保にある基地の概要・規模

米海軍基地



面積(米軍提供施設) 約 3.93km²

日本人従業員数 約 1,800 人(R7.4 時点)

海上自衛隊



面 積 約 1.21km²

隊員数 約 5,400 人(R7.4 時点)

護衛艦 16 隻 補給艦 2 隻

陸上自衛隊



面 積 約 1.83km²

隊員数 約 2,100 人(R7.4 時点)

本市では、基地に関連する経済活動が活発に行われ、市内総生産の約1割を基地経済が支えています。また、安全保障関連3文書(国家安全保障戦略、国家防衛戦略、防衛力整備計画)の見直しの動きがあるなど、今後さらなる防衛力の強化、ひいては防衛産業の拡大が見込まれています。ここでは国と本市の基地経済の現状を紹介します。



国の防衛予算増額の動き

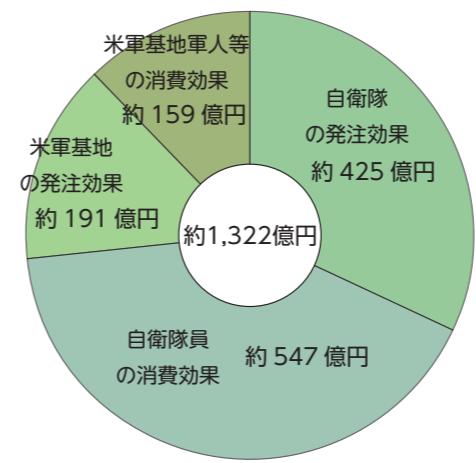
令和7年度の防衛関係予算是約8.7兆円と、前年度比9.4%増となり、過去最大規模を更新しています。令和4年度に決定された防衛力整備計画に基づき、防衛費は令和5年度から9年度まで約43兆円程度とされており、防衛力の抜本的強化に向け防衛産業への投資が続く見込みです。



佐世保市基地経済等実態把握調査

令和6年度、本市に立地する自衛隊や米海軍基地、防衛関連企業を対象に、発注や受注の実態分析、ヒアリングやアンケートによる課題とニーズの把握、地域経済への波及効果を調査しました。その中から、自衛隊や米海軍の経済波及効果(基地関連の発注や自衛隊員の消費などが地域の生産活動・雇用・所得などにどのような影響を与えるか測定したもの)を紹介します。

自衛隊や米海軍の経済波及効果



造船能力拡大に向けた動き

令和7年10月、国内17社で構成する日本造船工業会は、2035年までに建造量を約2倍に増やす方針を示し、総額3,500億円規模の設備投資を表明しました。なお同月には、本市と長崎県が連携し、造船業の振興に向けた設備投資や人材育成などについて国へ要望しました。



佐世保重工業株式会社の構内



佐世保市基地経済ビジョン(仮称)を策定へ

国の動向や基地経済等実態把握調査による報告、提案を踏まえ、基地という本市の強みを最大限に生かした地域経済活性化につなげるための羅針盤として、現在「佐世保市基地経済ビジョン(仮称)」を策定中です。

令和7年11月の米国サンディエゴ市やホノルル市の視察、また関係団体の意見を踏まえ、今年度内の完成を目指しています。



米国サンディエゴ市視察の様子



防衛関連の仕事をしている方に話を聞きました

海上自衛隊や米海軍基地から「ホームドクター」として頼られる存在でいたい

佐世保重工業株式会社 (SSK) 艦艇営業課
課長 横渡 大顕 さん



主な事業内容

当社は大きく「修繕部門(船の修繕)」と「機械部門」に分かれ、さまざまな船舶の維持・管理を担っています。特に修繕部門では、海上自衛隊艦艇の修繕が事業の中心であり、米軍艦艇や海上保安庁の巡視船、「飛鳥II」のような客船の整備など、幅広く手掛けています。

仕事のやりがい

防衛省や海上自衛隊からの業務を通じて、「日本の国防を支えている」という誇りと社会貢献の実感を持てることが、何よりのやりがいです。自分たちが修理した艦艇が、国際任務で活躍する様子を報道で目にする、「この仕事に携わっていて良かった」と強く感じます。船の修繕が無事に完了して、船を送り出す瞬間に、チーム全員で大きな達成感を共有できます。

(取材日 11月27日)

SSK の魅力

海上自衛隊と米海軍基地に隣接した立地は SSK ならではの大きな特徴です。急な修繕や特殊な作業にも素早く対応でき、「ホームドクター」として頼られる存在であり続けたいと思っています。

今後の展望

現在、国の政策動向は防衛産業にとって追い風になっていると感じています。SSK としても、この変化を確実に捉え、日本の国防や同盟国の支援に貢献できる強固な基盤を築いていくことが、私たちに求められている使命と考えています。

(取材日 11月27日)

佐世保には日本の安全を支える技術者がいることを知ってほしい

三波工業株式会社 佐世保事業所
所長代理 清谷 健二 さん



主な事業内容

当社は海軍技術研究所と海軍工廠の技術者が設立した会社です。現在、売上の 99% を防衛省とその関係先(造船所や装備メーカー)で占めており、護衛艦や航空機などに搭載されている電子機器の整備を専門に行ってています。

仕事のやりがい

「日本の安全・安心の一端を担っている」という自負を持てることが、大きなやりがいです。整備した機器を使う自衛隊員から直接感謝の言葉をかけられることも多く、仕事への励みになっています。また、整備業務は工場内だけでなく、停泊中の艦艇への出張作業や、場合によっては海外派遣先での修理を任せされることもあるなど、貴重な経験を積むことができます。

(取材日 11月28日)

印象に残る仕事

新造船の進水式(船舶を初めて水に浮かべる儀式)や、完成後の引き渡し式に立ち会えたことは、非常に印象に残っています。

今後の展望

これからも安定した事業運営を続け、地域の雇用に貢献していきたいと考えています。当社のような、防衛を技術面から支える企業の存在は、市民の皆さんにはあまり知られていません。佐世保には日本の安全を技術で支える人たちがいることを知ってほしいです。今後も裏方として、日本の安全を支えていくとともに、佐世保の一企業として誇れる会社でありたいと思います。

米軍前畠弾薬庫の移転・返還

概要・位置図

前畠地区にある米軍前畠弾薬庫(正式名称: 佐世保弾薬補給所)は、面積約 58 万m²の広大な敷地を持つ施設です。昭和 46 年以降、本市では佐世保港のすみ分けの推進や跡地の活用を図るために、前畠弾薬庫の移転・返還を国に求めており、米国との協議促進や関連事業の着実な進展を繰り返し要望してきました。

その結果、令和 7 年 8 月に、移転先である米軍針尾島弾薬集積所の施設配置案について日米間で合意に至りました。このことは平成 23 年の日米基本合意以来の大きな前進と捉えています。これまでご理解とご協力をいただいた関係地域・団体の皆さんに感謝するとともに、移転・返還の実現に向け引き続き取り組んでいきます。



市 HP
(日米合同委員会施設配置案合意)

これまでの経緯と今後の見通し

昭和 46 (1971) 年	返還要望開始(返還 6 項目)	令和 8 年度以降に
平成 10 (1998) 年	返還要望推進(新返還 6 項目)	国が行う事業
平成 21 (2009) 年まで	移転に関する関係地域・団体の同意	・調査、設計、環境影響評価手続き
平成 23 (2011) 年	移転・返還を日米合同委員会で基本合意	・公有水面埋立申請手続き
平成 30 (2018) 年	市による「前畠弾薬庫跡地利用構想」策定	・工事
令和 7 (2025) 年	針尾島弾薬集積所の施設配置案の日米合意	※工事完了まで約 20 年程度かかる見通し。

国が行う事業

- ・調査、設計、環境影響評価手続き
- ・公有水面埋立申請手続き
- ・工事

基地関連のイベントなど

日米交流演奏会 2026 ~ Hand in Hand with Harmony ~



日程 3月7日(土)
場所 アルカス SASEBO
内容 市内の中高生と、米海軍佐世保基地の E.J. キングスクリークの生徒などによる合同演奏会
料金 無料
問い合わせ 鹿児島防衛局企画部地方調整課地方協力確保室 ☎ 092-483-8816

「基地のお仕事紹介」動画
YouTube で公開中

令和 4 年 10 月から、海上自衛隊と陸上自衛隊の仕事を紹介する動画を公開中です。ぜひご覧ください。



web sasebocity
(基地のお仕事紹介)

特集に関する問い合わせ 基地政策局 ☎ 24-1111